

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **自然生命科学研究支援センター**

部局長名： **山本 進一**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
<p>【光・放射線情報解析部門】 法令に基づく新規教育訓練講習会(津島施設2回、鹿田施設6回) 再教育訓練講習会(3回) 英語による新規教育訓練講習会(1回) 医学部医学科基礎放射線学の講義と実習の実施(鹿田施設)</p> <p>【動物資源部門】 利用者研修会(6回) 教育訓練講習会(6回)(法令に基づくものを含む)</p> <p>医学部医学科生物学実習(集中)等学部教育の実施 e-learningを活用した教育訓練の実施</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 ・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について ・教育方法・内容について ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・学生支援について ・その他</p>	<p>【光・放射線情報解析部門】 ・新規教育訓練講習会 8回 ・再教育訓練講習会 5回 ・英語による新規教育訓練講習会 2回 ・医学部医学科基礎放射線学の講義及び実習 ・医学部医学科RI使用についての法規制と実験例の講義</p> <p>【動物資源部門】 ・動物実験施設の利用者研修会: 鹿田施設70回、津島北施設17回、津島南施設18回 ※改修及び改修からの再立ち上げに伴い利用方法が変則的になっているため鹿田施設の利用研修会は個別要望で対応する。津島南施設、津島北施設は従来から個別要望で随時実施 ・動物実験委員会の教育訓練を16回開催(内英語で2回開催) (鹿田・津島北)医学部医学科生物学実習を担当(24時間) (津島南)農学部応用動物科学コース実験を分担 ・動物実験委員会の教育訓練に係る知識確認試験を本学のWeb Classシステム上に作成し、実施した(英語バージョンを含む)</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 ・組換えDNA実験教育訓練を計8回実施(うち2回は外国人留学生を対象として英語による実施) ・放射線業務従事者教育訓練を2回、再教育訓練を3回実施(光・放射線情報解析部門と共同) ・薬学部の学部・大学院講義・実習、農学部の学部講義を担当 修士2名、博士2名が課程を修了し、企業、大学に就職・進学した</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・利用説明会・セミナー(法令に基づくものを含む)(7回以上): 31回 極低温分野・安全講習会 1回 機器利用説明会 26回、装置技術講習会 2回、 公開講座(分析セミナー)1回、H27年度安全衛生定期講習会 1回 ・利用訓練・資格試験(4回以上): 8回 NMR、高分解能MS、QTOF、ペプチドシーケンサーを、各々春と秋に実施 ・機器見学(講義等での受け入れ(1回以上)): 1回 理学部化学科 有機機器分析 ・機器利用相談の受け入れ(月5回以上): 平均15回/月 ・学生ユーザー数(150名以上): 331名(設備NW登録学生数)</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
<p>【光・放射線情報解析部門】 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築</p> <p>【動物資源部門】 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築 動物実験施設の整備</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 ・研究水準及び研究成果等について ・研究実施体制等の整備について ・その他 学会発表(1回以上/教員) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/教員) 学内外の共同研究の構築</p> <p>【分析計測・極低温部門】 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 学内外における共同研究の推進</p>	<p>【光・放射線情報解析部門】 ・研究成果論文の公表 3編 ・学会発表 3回 ・外部研究資金獲得のための応募 5件 ・学内外の共同研究の構築 7件 (農学部、資源植物科学研究所、歯薬学総合研究科、環境生命科学研究科、名古屋大学、京都大学、長崎大学)</p> <p>【動物資源部門】 ・論文1編、学会発表3件 ・外部資金1件(基盤研究C 新規(1件)継続(1件)計2件)、研究費応募 2件 ・津島南施設の部分改修に向けたプランニングの作成 ・鹿田施設の大規模改修竣工及び再立ち上げ ・(鹿田施設) 部門の利用料収入を用い、イヌ・ブタ飼育装置5台、カンクイザル飼育装置3台を整備</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 ・研究成果論文の公表: 4報(査読有、総説も含む) ・学会発表: 13件(うち、8件は共同研究者・学生による発表) ・外部資金の獲得のための応募: 7件(うち、1件が採択、4件が未定) ・学内外の共同研究: 10件 (UCSF、理化学研究所の2研究室、防衛医科大学、岡山大学IPSRの2研究室、九州大学医学部、味の素株式会社、東京大学理学部、医学総合研究所)</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・研究成果論文の公表(1編以上/各部門): 13編 太田5, 砂月7, 多田1 ・学会発表(1回以上/教員/各部門): 40報/4教員(平均10報/教員) 太田11, 砂月25, 小坂2, 多田4(重複2) ・外部研究資金獲得のための応募(1件以上/教員): 7件 /4教員(平均1.75件/教員) 太田1, 砂月1, 小坂1, 多田4 ・学内外における共同研究の推進: 20件 太田11, 砂月2, 小坂2, 多田5</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	

<h3>③社会貢献(診療を含む)領域</h3>	<h3>自己評価</h3>
<h4>③-1 目標</h4> <p>【光・放射線情報解析部門】 放射能による環境汚染対策について関連諸団体との連携をはかり、協力及び支援をする。</p> <p>【動物資源部門】 動物実験の技術講習会の開催又は開催支援を行う(1回以上)。 臨床医教育の実施箇所として動物実験施設の活用(動物実験施設での開催支援)(1回以上)。 動物実験関連領域の学会、協議会等の運営に関与する(1学協会以上)。</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 ・地域社会との連携、社会貢献について ・国際交流・協力、外国人研究者の雇用について ・その他</p> <p>高校生を対象とした、組換えDNA実験指導を実施する(1回以上)。 学外のプロテオーム受託サービスを行う(中国地区国立大学間連携を含む)。</p> <p>【分析計測・極低温部門】 学外依頼分析サービスの実施(4測定項目以上)。</p>	<p>【光・放射線情報解析部門】 ・福島原発事故による被災農地の修復に関する調査研究の実施(資源植物科学研究所との共同プロジェクト) ・科学振興仁科財団中学生派遣研修への協力(平成23年より継続)</p> <p>【動物資源部門】 ・マウス・ラット上級技術講習会の開催・ブタ初級技術講習会の開催(計2回) ・第6回 岡山ERフォーラムFIRST(Fundamental Immediate Resuscitative Surgery for Trauma)コース(主催:医歯薬学総合研究科地域医療学講座・救急医学講座)の開催支援(1回) ・職員が、日本獣医学会評議員、九州実験動物研究会(評議員、学術集会委員会委員、若手交流委員会委員)、岡山実験動物研究会(常務理事3名)、日本実験動物技術者協会(企画調整理事、並びに関西支部幹事2名)、国立大学法人動物実験施設協議会(動物実験適正化委員会副委員長)でこれらの学協会活動の運営等に参画 ・動物資源部門鹿田施設が日本実験動物技術者協会関西支部事務局を担当</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 ・高校生を対象とした組換えDNA実験指導:1回 ・学外のプロテオーム受託サービス:1件 ・高校生の施設見学:7件</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・学外依頼分析サービスの実施(4測定項目以上):6項目 NMR、XRD回折、X線構造解析、元素分析、質量分析、ペプチドシーケンサー ・機器利用説明会・講習会・機器見学会などの学外開放(5回以上):14回 機器説明会・講習会5回、見学会8回 合同開催「科学大好き岡山クラブ」テーマ:極低温の世界 1回 ・産学官連携行事への参加(1回以上):3回 知恵の見本市、おかもテクノロジー博、岡山リサーチパーク研究・展示会 ・学外利用研究室数の増加(8研究室):18研究室(4研究室増加) 国立大学10、公立大学4、公的研究機関1、営利団体3 うち、県内3、中四国地区内10</p>
<h4>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</h4>	
<h3>④センター業務</h3>	<h3>自己評価</h3>
<h4>④-1 目標</h4> <p>【光・放射線情報解析部門】 日常業務を適正に実施する(放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理、など) ホームページを随時更新し充実をはかる。施設ニュースを発行する。 OMIC事業及び先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業の推進のための支援業務を遂行する。</p> <p>【動物資源部門】 動物実験施設のSOP等を充実し、利用者への啓発を行う。 学外研究者へ研究支援体制を整備、OMICとの連携を図る。 平成24年度動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報を発行する(1報以上)。 センターニュースの発行(3回以上)。 施設利用のWeb予約システムを拡充する(1項目以上)。 動物実験委員会と連携して学内点検を行う(1回以上)。</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 組換えDNA実験のコンプライアンスを徹底する(安全管理、実験申請HPの充実)。 また、組換えDNA実験安全管理委員会と連携して、組換えDNA実験に関する施設を査察する(倉敷地区、鹿田地区を実施するが、耐震工事事務局は除く)。 ゲノム・プロテオーム解析機器の利用を促進する(講習会:1回以上、学内のプロテオーム受託サービス)。 放射性同位体実験の安全管理、作業環境測定の実施。</p> <p>【分析計測・極低温部門】 広報誌の発行およびホームページの充実。 学内依頼分析サービスの実施(4測定項目以上)。 設備サポートセンター業務(全学共同利用機器の設置要望調査など)の実施。 学内液体窒素および液体ヘリウム供給体制の充実。 学内利用研究室数の増加(100研究室以上)</p>	<p>【光・放射線情報解析部門】 ・放射線安全管理、被曝管理及び作業環境測定と、その全学支援を適正に実施した。 ・エックス線の全学安全管理体制の整備に着手した。 ・施設の維持管理を適正に実施した。 ・鹿田施設ニュースを発行した。 ・OMIC事業について積極的な支援を実施した。</p> <p>【動物資源部門】 【技術支援業務】 ・マウス胚凍結業務 119件、血液分析業務 104件、動物検疫 10件、中型動物実験支援31件(OMIC関連17件) 【施設の整備及び共同利用機器の整備】 ・鹿田施設の機能改善改修を実施、施設の再立ち上げを行う。 ・鹿田施設で使用していた飼育ケージ洗浄機、マウス飼育装置4台を津島南施設へ移管し、設備等の有効利用を図った。 ・共同利用機器としてフローサイトメーターの受け入れ。 【広報・施設利用の利便性の向上】 ・鹿田施設の改修に伴い機器Web予約システムを更新する。 ・各施設の標準手順マニュアルを整備、拡充を行った。 【点検・検証】(動物実験委員会活動) ・Web公開されてい本学の動物実験関係の契約関係書類をチェックし、動物実験規則に適合しない案件を抽出、関係する責任教員2名に動物実験規則を遵守するように注意した。</p> <p>【ゲノム・プロテオーム部門】 ・部門の日常業務は全て行った ・組換えDNA実験計画書の審査件数は229件の見込み ・組換えDNA実験安全管理委員会と連携し、組換えDNA実験に関する施設の査察を実施し(H.27度は津島地区の追加実験室、鹿田地区の歯学部、保健学科の査察をした。倉敷地区は改修工事が完了しなかったため、本年度は実施せず)、安全管理体制の構築を図った。 ・学内利用者へのゲノム・プロテオーム解析の講習会を3回実施した。 ・学内のプロテオーム受託サービスを12件実施した。</p> <p>【分析計測・極低温部門】 ・広報誌の発行およびホームページの充実: 広報誌発行(3月末)、 ホームページ更新29回(2/29現在)、ホームページサーバーの移行 ・学内依頼分析サービスの実施(4測定項目以上):6項目 NMR、XRD回折、X線構造解析、元素分析、質量分析、ペプチドシーケンサー ・設備サポートセンター業務(全学共同利用機器の設置要望調査など)の実施。 要望調査を実施(11月)、リユース(分野内→学内)2装置 学外相互利用(自己測定)制度の初実施 ・学内液体窒素および液体ヘリウム供給体制の充実 ・液体窒素 供給量:62,000kg 供給回数:6,700回 ユーザ数:130グループ(供給先には共同利用装置も含む) ・液体ヘリウム 供給量:33,000L 供給回数:500回 ユーザ数:20グループ(供給先には共同利用装置も含む) ・学内利用研究室数の増加(100研究室以上):148研究室(17研究室増加)</p>
<h4>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</h4>	
<h3>【総括記述欄】</h3>	
<p>支援センター業務において、コンプライアンス遵守のもとに放射線、動物実験、組み換えDNA実験を積極的に支援した。また、分析計測業務についても全学からの要求に確実に対応した。社会貢献についても様々な場で取り組んだ。 平成28年度には各種教育訓練、特にグローバル化に対応した英語による教育訓練の充実をはかる。</p>	